

令和4年度 第56回 中学生の「税についての作文」
税理士会町田支部長賞

『税のことを知って学んだこと』

町田市立堺中学校 3学年 奥田 虹輝

僕は、図書館の本を読んで学んだことが、2つあります。

1つ目は、仕組みが分かれば税金はおもしろいということです。

僕は、税金の仕組みが分かりませんでした。調べてみると「租税法律主義」というものが大事だと分かりました。これは、税金が発生する条件だけではなく、税金の計算方法や納税手続き・修正の仕方に至るまで、起こりうる様々な事態を想定して法律でルールを定めておかねばならないものなのです。昔から税金を巡り、権力者と納税者がもめていた歴史があります。だから、税金の取り立てが法律にもとづいていないといけないというのは、長い歴史の中で僕達が無視した大事な権利だというのが学べました。また、税金は、自分たちの国を自分たちで支える仕組みになっていると学びました。例えば、インフラ整備などの公的なサービスは、安全・安心な暮らしのためには欠かせません。しかし、その提供をするのには、たくさんのお金がかかってしまいます。そのため、国民がきちんと税金を納めないと、国を運営することはできないため、僕はこれを納める必要があります。僕は、税金は、払わないといけないというイメージでしたが、国を運営するためには僕達が自主的に負担をしているという、イメージとは違う側面も見つけることができました。

このように、僕達が税金を納めるのには、ちゃんと理由があり、仕組みを知ることによって税金の大切さを学ぶことができました。

2つ目は、累進税率と労働抑止の関係のことです。これは、僕が働けば働くほど税金は高くなってしまいかか気がなったので調べてみました。日本では所得が高額になるほど税率も高く設定されています。これを、「累進税率」といいます。僕は、これを知り低い税率が適用される所得の範囲内で働いた方がいいんじゃないかと思いました。さらに、累進税率には「労働抑止」という大変な副作用があります。そのため、所得全体の金額に応じて単純に累進税率を設定すると、逆転現象が起きてしまいます。それを防ぐために、「超過累進税率」があります。これは、一定金額ごとに適用される税率を段階的に引き上げていく工夫です。これにより、逆転現象の発生を防いでいます。僕は、こういった公平になるように工夫されているとは思っていませんでした。これなら、働き損を生じないので良いと思いました。日本の税制は、よく考えられていると改めて学びました。

今回、税のことを調べて、考えが大きく変わりました。税には、ちゃんと役割があり、納めなければいけない税金も公平でたくさんあることを学びました。だから、この調べた知識を今後の生活にも生かして、少しでも多くの人に税に興味を持ってもらえる嬉しいです。